

「食と農」の博物館 展示案内

No.6

東京農業大学「食と農」の博物館

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀2-4-28

TEL. 03-5477-4033

FAX 03-3439-6528

展示期間

2004.12.1～2005.3.20

美しい国づくり ランドスケープアーキテクト展



はじめに

21世紀を迎えて、ガーデンアイランド構想や美しい国づくり政策大綱、さらに観光立国宣言と続きました。これにより、日本の新しい国づくりの方向は、アメニティ環境と定まり、景観法も制定され、まもなく施行されようとしています。このとき、タイミングよく国際的相互承認を目指したランドスケープアーキテクト (RLA) 資格制度が日本に誕生しました。

この展示は、その称号を特別認定で取得した200人の中に東京農大出身者が52名いたことを踏まえ、彼らの作品と作風を紹介するものです。

あわせて、東京農大で現在学んでいる学生への実学教育の糧を授け、また、展示の期間中にパネルディスカッションやトークセッションを準備しました。そして、地域に貢献する農大をここでも実践すべく、来館の皆様にも「あなたのライフ・アップへの支援」相談窓口も開設いたします。どうぞ、ごゆっくりと期間中の展示をお楽しみいただきたく思います。

美しい国づくりランドスケープアーキテクト展
実行委員会代表 蓑茂 寿太郎 (造園科学科・教授)

登録ランドスケープアーキテクト (RLA) とは

登録ランドスケープアーキテクトは「一定の知識と技量からなる能力」を個人にたいして認定する制度です。ランドスケープアーキテクトに要求される知識と技量は、決して狭い範囲に止まりません。

広範囲にわたる知識と技量を細分特化する傾向にありますが、ランドスケープアーキテクトは、それに止まることなく統合の方向を旨とする職能だといえます。したがって、合意形成能力をも試されるプランニング力や一定以上のエンジニアリング能力を伴った具体の空間形態を提示できるデザイン力が問われます。

この制度がイメージしている登録ランドスケープアー

キテクト (RLA) の仕事として

1. 自然環境の保全を目標に、緑・水・土などの自然要素を「命ある素材」として効果的に扱うデザイン
2. 快適さを指向する環境空間やレクリエーションの場のデザイン
3. 生態学的原理を土地利用計画に応用し、生態系の構造と機能を活かした環境のプランニングおよびこれに続くデザイン
4. 地域の歴史文化に根ざした空間デザイン
5. 市民・住民参加によるコミュニティ環境のデザイン

が上げられています。

東京農業大学出身の登録ランドスケープアーキテクト

氏名	年度	勤務先	氏名	年度	勤務先
伊藤 邦衛	昭和22	(株)伊藤造園設計事務所	上野 裕治	昭和49	ハイランドパーク(有)
阿久津佳央	昭和31	(株)景観プランニング	北川 明介	昭和50	(株)グラック
杉尾 邦江	昭和35	(株)プレック研究所	竹川 清和	昭和50	(株)あい造園設計事務所
川瀬 篤美	昭和36	(株)環境設計研究室	出来 正典	昭和50	(株)シビックデザイン研究所
土方 利夫	昭和37	(株)虹設計事務所	平嶋 孝	昭和50	(株)大揮環境計画事務所
山本 紀久	昭和38	(株)愛植物設計事務所	山本 富雄	昭和50	(株)長谷工コーポレーション
井上 芳治	昭和39	環境設計(株)	地福 由紀	昭和51	(株)アトリエ福
青島 利浩	昭和40	(株)東京ランドスケープ研究所	加園 貢	昭和52	(株)伊藤庭園工房
飯島 忠昭	昭和40	(株)プレック研究所 沖縄事務所	中里 巖	昭和52	(株)和計画コンサルタント
枝吉 茂種	昭和41	(株)グラック	光益 尚登	昭和52	(株)虹設計事務所
新井 英光	昭和42	(株)リアライズ造園設計事務所	南 賢二	昭和52	(株)ラック計画研究所
井上 忠佳	昭和42	(株)創建	小作あき子	昭和53	(株)プレック研究所
藤原 清	昭和42	(株)あい造園設計事務所	岡村 郁雄	昭和54	日本技術開発(株)大阪支店
黛 卓郎	昭和42	(株)プレック研究所	栗原 国男	昭和54	(株)あい造園設計事務所
望月 昭	昭和42	兵庫県立姫路工業大学自然環境科学研究所	白井 浩司	昭和54	(株)グラック
涌井 史郎	昭和42	桐蔭横浜大学 工学部	坂庭真理生	昭和55	自営
進藤 邦生	昭和45	セントラルコンサルタント(株)	津田 秀文	昭和55	(有)ワイズクリエイト
田中 省二	昭和45	(株)タナカ総合環境設計	林 昌彦	昭和55	(株)和計画コンサルタント
戸田 芳樹	昭和45	(株)戸田芳樹風景計画	丸山 秀幸	昭和55	(株)愛植物設計事務所
内藤英四郎	昭和45	(株)内藤ランドスケープ計画事務所	戸咲 道彦	昭和56	(株)和計画コンサルタント
松岡二三夫	昭和45	(株)緑住環境計画	奥野 勇	昭和57	(株)伊藤造園設計事務所
新井 豊	昭和47	(株)フジランドスケープ	倉本 恵治	昭和57	自営
中島 寛久	昭和47	(株)総合庭園研究室	池上 満	昭和58	(株)アイ・ティ・オー
有賀 一郎	昭和48	サンコーコンサルタント(株)	納谷 和親	昭和60	(株)環境設計研究室
酒井 一江	昭和48	(株)淡窓庵	久恒 建	昭和62	高野ランドスケーププランニング(株)
武田 純	昭和48	岐阜県立国際園芸アカデミー	鹿野 陽子	平成13院卒	東京大学大学院

上記の個人・会社への問い合わせがある方は社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会へご連絡をお願いします。
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-16第3工業ビル TEL.03-3237-7371

「時代とともに進化してきた緑」

これを支えたランドスケープアーキテクト

緑の効用は時代とともに進化してきたとされています。それは文明の発展に応じ、緑への期待が変化してきた事実から伺うことができ、新しい価値観が生まれる中で次々と進化し、緑の新しい形態を導いてきました。これを私たちは、お庭や公園、並木道等として見てきたわけです。

緑の進化は、19世紀の産業革命の時代には劣悪な住環境に暮す庶民の『都市の窓』として、太陽の光と風を感じる存在となり、環境の問題が深刻化すると『都市の肺臓』に見立てられて人間に必要な酸素を生み出す重要なものとして認識されるに至りました。そして、20世紀に入ると社会交流活動が活発になり、公園は『文化の舞台』としての効用を発揮し、加えて関東大震災を機に防災的効果への期待が高まることになりました。『安全・安心のシェルター』という機能の発揚です。また公園はオリンピックや博覧会の会場として利用されるなど『国際交流の場』としても大いに利用されました。

そして、近年では都市のヒートアイランド現象を緩和する『都市の冷却器』として期待され、また経済的価値の認知から『都市のキャッシュ・バンク』としても考えられるようになってきているわけです。

このように公園緑地は、時代の要求に応じた新しい機能を見出し、その重層化の中で緑や公園の形態も変化がおきています。公園緑地のデザインも機能主義・モダニズムの中で一時期はパターン化の一途を辿るようにも見えましたが、それを克服するデザインはポストモダニズムなどとして見えるようになりました。

機能主義で支配されただけのデザインに国民が満足してくれる時代は終わりました。過去の郷愁を呼び起こしたり、逆に未来に向けた想像力を沸き立たせてくれる『風景としての緑』が現在の環境を批判する非日常的な環境装置として設けられなければならないように思われます。

これが現在であり、これが進化し未来の公園緑地となるのでしょうか。そのためのデザインとエンジニアリング開発を、新しく創設されたRLAの職能に担っていくことが求められています。

持続可能な都市ビジョンを描くなかで、公園緑地は無数の可能性をもちます。いわんや、地球スケールの環境問題の取り組みが求められる現代においては、緑の効用はさらに高まると思います。それを活かし人の感性に訴えるデザインとして具体化できるRLAの役割はますます重要視されると思います。



ランドスケープと社会との接点 博覧会とランドスケープアーキテクト

博覧会の会場計画は、優れた時代認識と地域認識に立って策定された時成功した事例が多いように思います。万博の歴史をたどると、近代都市計画思潮の重要な側面を知ることになります。

1851年のロンドン博では、会場となったハイパークが継承してきた誇りある土地の文脈を尊重する方針から、水晶宮と称された華麗な展示館が生まれました。

1889年のパリ万博ではフォーマルな配置の展示館とインフォーマルな園地構成の融和やランドマークのエッフェル塔等、いずれも都市景観の伝統形成につながりました。そして1893年のシカゴ博では、立地環境を活かした会場計画で内湾や運河、池を取り込み、水面に映る美しいモデル都市・シカゴのあるべき姿に一つの答えを出しました。

このように博覧会計画は近代都市計画の確実な温床として評価され、そこでランドスケープアーキテクトが果たした役割は大変大きかったわけです。

＝愛知万博の計画イメージ＝



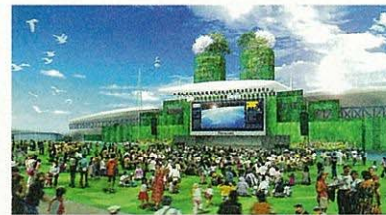
会場全体図

さて、20世紀になってからの博覧会の会場計画は、展示パビリオン中心で、会場計画そのものに博覧会の意義を投影したものが少ないと感じざるを得ません。

その中で、花と緑をテーマとする会場計画そのものが評価される博覧会が我が国で開催されました。

1990年の国際花と緑の博覧会を皮切りに2000年の淡路園芸・造園博覧会、2004年浜名湖花博など、国際・国内博覧会が開催され、多くの来園者を集めるとともに環境問題や自然との共生を認識する契機を生みました。ここでも、多くのランドスケープアーキテクトの努力が認められています。

2005年には、『自然の叡智』をテーマとする愛知万博が開催されます。そこでも東京農大出身のRLAである涌井史郎氏が会場演出プロデューサーを担当し、戸田芳樹氏がランドスケープディレクターを担当するなど、多くのランドスケープアーキテクトが参画しています。この博覧会がこれからの環境時代にあって新たな都市計画の思潮を生む事を期待し、声援を送りたいと思います。



バイオ・リング
巨大な壁を花と緑で
埋め尽くす未来空間



地球市民村
日本と海外のNPO、
NGOの集う交流空間

地球環境改善に期待される緑化（COP3と京都議定書）

COPとはConference of the Partiesすなわち、締約国会議の略称です。よく新聞などで目にするCOPは、通常「気候変動枠組み条約」に関する締約国会議のことを指しており、COPの後ろにつけられる数字は開催回数を示しています。COP3は京都会議の略称となります。

京都議定は地球温暖化防止のための気候変動枠組み条約の下で、先進各国の温室効果ガス削減義務を定めた国際協定であり、1997年、京都市で開かれた同条約第3回締約国会議（COP3）で採択されました。二酸化炭素（CO₂）などの排出量を2008—12

年の間に、90年の水準から欧州連合（EU）で8%、米国で7%、日本で6%減らすという数値目標が盛り込まれました。米国は自国経済への悪影響などを理由に01年に離脱。ロシアは閣議で批准を決め、大統領の最終決定を待っています。

造園の領域においては緑の保全と創出が求められています。二酸化炭素（CO₂）の固定のためには、植物と土壌有機物の量を増やすことが必要です。現状の森林保全はもとより、都市の中においても様々な形で公園緑地を増やし、ガーデンアイランドの形成を目指した取り組みが求められています。

サッカーのワールドカップを支えた芝生管理

2000FIFA日韓ワールドカップ本大会の国内試合会場は、わが国の10会場のうち7会場が都市公園でした。また、26都市の都市公園の芝生グラウンド(ピッチ)が公認キャンプ地、練習場として使用されています。このような運動公園の計画設計は造園の仕事です。

サッカー場の主役である天然芝生のピッチづくりと管理においても、ピッチコンディションを常にベストな状態に保つため、芝床の透水性や通気性、排水性の確保、発育状況や気候に合わせた水分量、施肥・施薬の管理、刈り込みなどの調整を管理しており、先のワールドカップ大会やJリーグなどの試合の陰には、多くの造園技術者が情熱をもってコンディションづくりに取り組んでいます。



埼玉スタジアム2002



新潟・鳥屋野湯公園

小説の中に描かれた造園家 『夢は枯野を』・『日本の庭』 立原正秋

中世の美に惹かれ、日本の風土と伝統にねざした作品を数多く手掛けた作家立原正秋は、造園家を主人公にした作品も手掛けています。そのひとつが『夢は枯野を』です。この作品では造園家(ここでは作庭家と言い換えた方が良くかもしれませんが)の創作者(クリエイター)としての姿勢の一面がよく表象されています。

『日本の庭』は「美の再発見」という序章から始まり、「露地」「夢窓疎石」「桂と修学院」「枯山水」「浄土」…など十二章にわたって、各種の庭やその作庭にかかわった

人々について、著者独自の視点から論評を記しているもので、立原正秋という小説家・文学者が「日本の庭」とは何か、その意味と価値を評論した書です。しかし、読み進むうちに立原正秋という人の人間性や人物像がみえてくる書でもあります。

文中の「それらの庭は、作庭家の手で作られたものもあるし、禅僧の発想によったものもある。

いずれにせよ、当初のかたちを残しているのもあり、歳月によって変化したのものもある。作庭時のまま残っていても、やはりそこには歳月がつもっている。

この場合、歳月とは自然淘汰のことである。いつの時代に誰がつくったか、ということは私にとって問題ではない。つくった人の美意識がくまなく表出されているかどうか問題である。十全に表出された庭なら、そこに歳月による自然が作用したにせよ、当初の軸は残っている。」という一文は、ものづくりを目指す創作者や学生にとって、作品を考える上での大切な視点といえるでしょう。



NHKテレビ小説に登場するランドスケープアーキテクト

造園の職能はNHK朝のテレビ小説にも3回取り上げられました。1回目は1976年熊本を舞台にした「火の国に」。ヒロインは鈴鹿景子さんで女性ながら庭師を目指す物語でした。2回目は1998年、大阪を舞台にした「やんちゃくれ」。ヒロインの母である藤真利子さんが大阪のベイエリアの再開発を手がけるランドスケープアーキテクトとして登場しました。

そして2004年。宮崎と神戸を舞台に10月から放映

中の「わかば」です。原田夏希さん演じるヒロインのわかばは神戸の震災に合い、母の故郷である宮崎へ避難し、その大学で造園学を専攻します。彼女は建築家であった亡き父との約束で神戸に戻りランドスケープアーキテクトを目指す。

さてどのようなランドスケープアーキテクトが描かれるのか今後の展開を期待したいと思います。

ご案内

■ トークセッション

開催期間中にはランドスケープアーキテクトといろいろな人が4回のトークセッションを行います。テーマは次の通りです。

第1回 オープニングセッション 《2004年12月11日(土) 14:00~16:00》

『景観法と美しい地域風土を考える』……………コーディネイター 南 賢二

第2回 ニューイヤーズセッション 《2005年 1月22日(土) 14:00~16:00》

『ランドスケープアーキテクトの社会貢献を考えるー昔・今・未来ー』…コーディネイター 戸田 芳樹

第3回 学生とコラボセッション 《2005年 2月19日(土) 14:00~16:00》

『学生の課題をいろいろな角度で考える』……………コーディネイター 北川 明介

第4回 みなさんとセッション 《2005年 3月20日(日) 14:00~16:00》

『庭園とガーデニングを考える』……………コーディネイター 山本 富雄

■ 造園・ガーデニング相談室

この展示会の開催期間中は「お庭に関する相談コーナー」を設けて、住民のみなさまがお困りのことや疑問にお答えしますので、ご利用ください。

また、3月の終わりにけやき広場では毎年植木市が開催されます。その期間中は博物館の相談コーナーで、ランドスケープアーキテクトが実際にみなさまのご相談を伺います。植木市と一緒に是非お立ち寄りください。

美しい国づくりランドスケープアーキテクト展実行委員会

蓑茂 寿太郎 服部 勉 井上 芳治 上野 裕治
加園 貢 北川 明介 酒井 一江 武田 純 地福 由紀
津田 秀文 戸田 芳樹 南 賢二 山本 富雄

● 三鳴鶏(さんめいけい)の鳴きあわせ

2005年1月1日(元旦) 10:00~ けやき広場(博物館前)にて
東天紅(とうてんこう)、唐丸(とうまる)、声良(こえよし)

● 三笠山を焼く会 自由参加です。直接会場においでください。

2005年1月23日(日) 11:00~16:00
当館セミナールーム(2階)にて 協力:(株)文明堂新宿店

● 講演会 自由参加です。直接会場においでください。

1) 日本鶏の起源について

日時: 2004年12月4日(土) 14:00~15:30
講師: 小見山智義氏(国立遺伝学研究所研究員)
場所: 本館2階セミナールーム

2) ニワトリの病気と人との関わり

日時: 2005年1月15日(土) 14:00~15:30
講師: 渡邊 忠男氏(本学畜産学科教授)
場所: 本館2階セミナールーム

3) 日本料理と日本鶏

日時: 2005年3月13日(日) 13:00~15:00
講師: 正田 陽一氏
(社団法人全日本家禽協会会長・東京大学名誉教授)
場所: 本館2階セミナールーム

■お問い合わせは「食と農」の博物館まで 電話03-5477-4033

美しい国づくり ランドスケープ
アーキテクト展は以下の皆様のご
協力により、開催させていただきました。

■ 主催

東京農業大学 美しい国づくり・ランドスケープ
アーキテクト展実行委員会

■ 共催

東京農業大学地域環境科学部造園科学科
東京農業大学緑友会
(社)ランドスケープコンサルタンツ協会

■ 協賛

(株)日比谷アメニス/内山緑地建設(株)/
(株)富士植木/箱根植木(株)/西武造園(株)/
東光園緑化(株)/(株)桂造園/(株)岡野造園/
(株)大場造園/(株)矢藤園/緑進造園(株)/
(株)柳島寿々木園/根岸造園土木(株)/
(株)勇和造園/西村造園土木(株)/
(株)創研ガーデン/(株)吉村造園/
高村造園土木(株)/(株)野沢園/(株)和泉園

次回企画展のご案内

「とぐ・研ぐ・磨く展」

—米・漆・農具・和三盆—

をとぐ—

2005年4月1日(金)~

9月19日(月)